沙羅の樹文庫だより

NO.166(20年5月号)

❤いつのときも、
こどもの日は明るく楽しくあってほしい!!
ですね❤

一　心

生きのびるために
生きているのではない
死を避けるために
生きているのではない

そよ風の快さに和む心と
竜巻の禍々しさに怯える心は
別々の心ではない
同じひとつの私の心

死すべきからだのうちに
生き生きと生きる心がひそむ
悲喜こもごもの
生々流転の

谷川　俊太郎

２０２０年・開館スケジュール

◆5月は引き続きコロナウィルスのため閉館
若葉のころのおはなし会は、延期します。
◆6月は通常20日（土）と21日（日）
◆7月の開館日は変更です。
24日（金）～　26日（日）
開館時間：　13:00～17:00(3日とも)
★おはなし会は7月23日（水：海の日祝日）
開館記念子どものためのおはなし会
7月23日（海の日）13:00～14:30　文庫で。
20回海の日のおはなし会
7月23日16:30～19:00　伊豆高原駅前広場
海の日のおはなし会は今年20回をもって終了
ぜひぜひ聴きにいらっしゃってください。
◆8月はロング開館：
13日（木）～18日（火）10:00～15:00
◆9月は通常19日（土）と20日（日）

毎月開館日の日曜には、
「子どものための小さなおはなし会」
♥午前１０：３０～１１：００♥
《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会（おはなし・沙羅）は、
毎月開館日の土曜１１：００～１３：００

〒413-0235　伊東市大室高原7-１２２
ホームページ：saranokibunko.com

4月初旬、桜の向こうに会津・鶴ヶ城（西村）

文庫あれこれ

◆緊急事態宣言が５月いっぱいとなり、５月も休館となってしまいました。◆恒例の〈若葉のころのおはなし会〉も延期です。◆いつもだったら、伊豆高原アートフェスティバルならぬ、〈五月祭〉の真最中で賑わっていることでしょう。小室山のツツジも色とりどりに咲き乱れているでしょう。◆伊東市のＨＰをみると、学校、保育園などは、東京と同じ５月末日までお休みのようですね。でも、伊東市は感染者数０だということ、素晴らしい。どうか、他の地がコロナ収束まで、みなさんお大事に。◆しかし、このところ、地震が頻発。これで大きな地震がきたらと考えると怖いですね。◆いつもより新聞をじっくり読んでいます。おかげで考えることが多岐にわたり、気づかなかった世界や考え方があることを知ります。これもコロナ故でしょうか。まあ、とにかく、プラス思考で自分のキャパ（容量）を広げたいと思います。◆ところで、出版物流業界にも異変がおきているようです。新刊なのに、値段が超高くなったり、取り扱いしていませんと、手に入らなかったり。でも６月には、読んでいただける新刊などをたくさんお届けしたいと考えています。◆6月に元気でお会いしましょう。できることなら、マスクなしで !!　でも本を読む前に手を洗う習慣はつけましょう（文庫案内に書かれている、文庫の約束ごと３つのひとつです）　（西村）

・・・・★・・・・★・・・・★・・・・

好きな５月の詩です

ふらんすへ行きたしと思へども
ふらんすはあまりに遠し
せめては新しき背廣をきて
きままなる旅にいでてみん。
汽車が山道をゆくとき
みづいろの窓によりかかりて
われひとりうれしきことをおもはむ
五月の朝のしののめ
うら若草のもえいづる心まかせに。

旅上（萩原朔太郎）

読んでみました!!!　〈澤口杜志〉

『ぼくは イエローで ホワイトで、ちょっと ブルー』

（ブレイディみかこ著　新潮社　2019）

昨年出版されるや瞬く間にベストセラー。コミック版より少し大きい位のサイズで手に取りやすい。表紙、裏表紙共に黄色に覆われ、タイトル文字の周囲だけ白色。小さな英語文字タイトルは青色。帯は青色で目立つ。表紙には目がちょっとつり上がった、大事そうにスニーカー（意味がある）に触る少年のイラスト。センスがいい。この時点だけでこの本を手にとるような気がする。編集者、装丁者って凄い。そして、この長いタイトル。抜群にインパクトがある。作者の息子がノートに落書きした言葉からつけたらしい。

日本人の作者とアイルランド人の夫、そして一人息子。イギリスのブライトンでの日常、主に息子の『元底辺中学校』生活が綴られている。文中、登場人物の名前は出てくるが、息子と夫だけファーストネームが出てこない。家族への配慮か。イギリスで保育士の資格をとり、『底辺託児所』で働いていた作者。夫もなかなかユニーク。その一人息子は本当にいい子だ。移民問題、人種、差別、貧困、格差、ジェンダー、LGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クェスチョニング）シティズンシップ・エディケーション（72～74㌻）問題が次から次へと。日本では？と、思わず考え込む。

11歳の息子が言う。「僕は、人間は人をいじめるのが好きなんじゃないと思う。・・・罰するのが好きなんだ。」（196㌻）胸を突く。両親の他に、教師、周囲のあらゆる人たちに育てられているからこその言葉のようだ。

作者が福岡での中学生時代、若き女性担任教師から言われたこと、「どの差別がいけない、っていう前に、人を傷つけることはどんなことでもよくない・・・。」（70㌻）

この言葉は作者がイギリスで『移民』として生きる礎になっているような気がする。

気になること。作者は息子になぜ日本語を教えなかったのだろう？バイリンガルに育てることは可能だったと思うのだが。息子は「母ちゃん」と呼んでいるが、日本語の「Katyan」かな？『波』にまだまだ連載中とか。続編を楽しみに待っている。

★澤口さんは、岩手・盛岡に住んでいます。（何とコロナ感染者０地。海の日のおはなし会に〈おはなしを語る〉ため、毎年、はるばる盛岡からやってきてくれます。今年も!!　手遊びやわらべ唄もお得意です。）

★・・・・・★・・・・・★・・・・・★

私にとっての愛読書　〈中川まゆみ〉

今から50年ほど前、確か小学校4年生くらいの時、学校でプリントが配られました。学研のポケット図鑑の購入希望用紙です。

当時は、よく学校経由で、本とか図鑑とか肝油とか（!!）を購入したものですが、その時も家に帰って親から２冊買ってあげると言われ、わくわくしながら結構悩んで決めた覚えがあります。

その時の一冊が当時の私にとって愛読書となった「岩石・鉱物」でした。特に石が好きだったという訳ではないので何となく選んだのだと思います。実物は、題から想像するといかにもコチコチなイメージですが、なんと言ってもそこは図鑑ですので、写真が多く、鉱物・宝石・岩石・化石と４つのコーナーをひととおり眺めるだけでも楽しいし、縦17センチ、横７センチというサイズも子供には丁度良かったようです。

図鑑が愛読書というのもおかしいかも知れませんが、この図鑑が私の手元にやって来た日から、まさに毎日毎晩、ある時は写真を眺め、ある時は解説を読み、時間があれば手にしていたように思います。

中でも、お気に入りの鉱物の結晶の様子やきれいにカットされた宝石の写真は神秘的で、ずっと見ていても飽きることがなく、少し難しい説明用語なども、大人の雰囲気が気に入って覚えてみたり。

その後時が経って、いつの間にか図鑑も姿を消してしまったのですが、何かの折に思い出しては懐かさを感じる存在でした。

一度どうしてもまた見たくなって学研に電話して同じ書名のものを取り寄せましたが、中身がすっかり改定されていてがっかりしたことがあります。

それがなんと、ある日何十年ぶりかでひょっこり出て来たのです。見た目はすっかりくたびれているけれど、懐かしい私の「岩石・鉱物」。早速ページをめくると記憶どおりの写真たち。

またあの頃の世界に入って行けると思ったのだけれど…あれ？何か違う。写真が綺麗じゃない。宝石も透明じゃない！
それはそうですよね。50年も前の印刷技術ですから。なのに当時の私には本当に綺麗で、透き通って見えたのでした。まるで詩や小説を読むのと同じように想像の世界に入っていたのでしょうね。

想像と言えばもう一冊、高校時代、現代国語の授業で出逢った西脇順三郎の「ギリシャ的抒情詩」を思い出します。ギリシャの雨の様子が出てくるのですが、これがとても素敵で、高校生の私はお天気雨の度に“きっとギリシャの雨はこんな感じね”と思ったものです。

その後も私にとっての愛読書は、常に想像力を掻き立ててくれるものであった気がします。

★彼女の中にはどれだけ違ったキャラが ???

2020 年 5 月に入った子どもの本

絵　本

絵本　　2冊

『なきたろう』（松野正子作・文　赤羽末吉絵　復刊ドットコム）ID13278　　『ひょうたんめん』（神沢利子文　赤羽末吉絵　復刊ドットコム）ID13279　　『ひかりの素足』（宮沢賢治作　赤羽末吉絵　偕成社）ID13280

『おへそがえる•ごん①ぽんこつやまのぽんたとこんたの巻』（赤羽末吉さく・え　福音館書店）ID13281　『おへそがえる・ごん②おにのさんぞくやっつけろの巻』ID13282　　『おへそがえる・ごん③こしぬけとのさまの巻』ID13283

＊4 月、5 月と赤羽末吉さん描く絵本がたくさん。子どもといっしょに読んでみてください。

『そらまめかぞくのピクニック』（もりかみしょうか作　吉備人出版 2020）　ID13285

『おれ、よびだしになる』（中川ひろたか文　石川えりこ絵　アリス館 2020）ID13286

『ぼくのおにいちゃん』（マレーク・ベロニカ文と絵　うちだひろこ訳　風濤社）ID13277

『きのう　きょう　あした』（マレーク・ベロニカ文と絵　マンディ・ハシモト・レナ訳　風濤社）ID13270

『３人のママと３つのおべんとう』（クク・チスン作　斎藤真理子訳　ブロンズ新社）ID13271

＊**大人女性/おかあさんの絵本だった ?!**

よみもの

『昔はおれと同い年だった田中さんとの友情』（椰月美智子作　小峰書店 2019）ID13287

『5000 キロ逃げてきたアーメット』（オンジャリ Q.ラウフ作　久保陽子訳　学研プラス 2019）ID13284

2020 年 5 月に入った大人の本

フィクション

『御社のチャラ男』（絲山秋子著　講談社 2020）ID18174

『流浪の月』（凪良ゆう著　東京創元社 2019）ID18186 ＊**2020 本屋大賞**

『クスノキの番人』（東野圭吾著　実業之日本社 2020）ID18185

『まむし三代記』（木下昌輝著　朝日新聞出版 2020）ID18176

『チンギス記７　虎落』（北方謙三著　集英社 2020）ID18177

『護られなかった者たちへ』（中山七里著　NHK 出版 2018）ID18194＊**知らなかった生活保護問題。**

エッセイ

『きのう、きょう、あした。』（つばた英子/つばたしゅういち著　主婦と生活社）ID18178

文 化

『それを、真の名で呼ぶならば』（レベッカ・ソルニット著　渡辺由佳里訳　岩波書店 2020）ID18187

『新しい目の旅立ち』（プラープダー・ユン著　福富渉訳　ゲンロン 2020）ID18179

『ペストの記憶』（ダニエル・デフォー著　武田将明訳　研究社 2017）ID18183＊**コロナと考える。**

『日中関係史-1500 年の交流から読むアジアの未来』（エズラ・Ｆ・ヴォーゲル著　益尾知佐子訳　日本経済新聞出版社 2019）ID18184

『人殺しの花』（大貫恵美子著　岩波書店 2020）ID18175

『魔法の糸』（ウィリアム・J・ベネット著　大地舜訳　実務教育出版）ID18191

『深い知恵の話１００』（マーガレット・シルフ著　中村妙子訳　女子パウロ会）ID18192

『歩く江戸の旅人たち』（谷釜尋徳著　晃洋書房 2020）ID18195

文 庫

『ペスト』（カミュ著　宮崎嶺雄訳　新潮文庫 87 刷）ID18182 ＊**コロナを考えるときに！**

『異邦人』（カミュ著　窪田啓作訳　新潮文庫 128 刷改版）ID18182

『キプリング短篇集』（ラドヤード・キプリング著　橋本槇矩編訳　岩波文庫）ID18172

『ジャングル・ブック』（ラドヤード・キプリング著　金原瑞人訳　文春文庫 2016）ID18173

『アイヌと神々の物語-炉端で聞いたウウェペケレ』（萱野茂著）ID18181

『十二人の手紙』（井上ひさし著　中公文庫改版８刷）ID18188

『日々是口実』（土屋賢二著　文春文庫 2020）ID18180

『芥川龍之介全集 5』（芥川龍之介著　ちくま文庫 16 刷）ID18189

『六の宮の姫君』（北村薫著　創元推理文庫）ID18196 ＊**上の ID18189 と併せ読んで見て！**

伊・豆・高・原・便り

～川柳をつくって愉しむ～　金子進一

先日、全国規模の川柳記念句会がありました。

課題は「感謝」で、応募総数3162句、完全無記名にて全国有名川柳作家30名が個々に順位付けをし、それらの合計点にて入選句が決定されました。そのうちの上位10句を紹介します。

天：戦いに負けても帰る家がある　勢藤潤（群馬）
地：完走の道に一礼して終わる　田辺与志魚（広島）
人：ありがとうが溢れて陽だまりになった
鈴木かこ（大阪）
秀：返せない恩は大地に蒔いておく　石川典子（愛知）
：土砂降りの真ん中人間に会えた　佐藤文子（愛知）
：路地裏のカフェにわたしの椅子がある
冨永紗智子（愛知）
：アフガンの荒地アリガトウが芽吹く
小池一恵（福岡）
：給料をもらって好きな仕事する　嘉山和美（静岡）
：グラッチェと片手を上げて父が逝く
加藤ゆみ子（神奈川）
：丹念に磨いています自前の歯　佐野かんじ（千葉）

感謝をいろいろな切り口から詠んでいます。皆様はどう評価されるでしょうか？　我々大室川柳会の仲間も一部の選者からは選んでもらえましたが、総合点では遠く及びませんでした。

コロナ禍では当たり前だったことがとても有難い事、感謝する事だったと気付かされます。この機会に感謝について考えてみたらいかがでしょうか？

行くところがある、やること**がある、会える人がい**る。それを文字にしてみたら‥‥そして１７文字で詠んでみたら‥‥提案です。

政治や社会に対する指摘（時事川柳）や自虐的なユーモア（サラリーマン川柳）もありますが、感謝の暖かい日差しが届くような川柳を・・・と思っています。

〈コロナ禍の中の伊豆暮らし〉

中西　景子

オオデマリ、シャクナゲ、オダマキが咲き、ギボウシが若芽を伸ばして、新緑の美しい季節です。初夏の風の中、のんびり庭を眺めて深呼吸できるのは、いい時間です。タケノコを掘って食べ、近くにワラビを取りに行き、昨日はご近所さんから畑のウドをいただきました。老人村の年金生活者には、コロナも遠い毎日ですが、子どもたち、孫たちの暮らしはこれからどうなっていくかと考えると、気が重くなります。

３月末には、予約してあった関西の温泉に出かけ、愛知と和歌山に住む子どもたち家族に会えました。ついでに寄った法隆寺には全く人が居なくて、騒がしい外国語が聞こえないとこんなにゆっくりできるのかと、幸せ気分で歩きました。

それから、最悪の日々がはじまりました。4月は、お誕生日や結婚記念日があって、珍しく夫とのコンサートのチケットが買ってあり、新しい「ミクニ」で食事をと思っていたのが二つともだめになりました。もう何年も横浜に通っている、3 月からはじまる半年のコンサートの 6 月までが延期・キャンセルになりました。20 年以上続いている横浜の会の総会も、年 1 回続いている学生時代のクラブの旅行もなくなりました。

緊急事態宣言が出るまでは、マスクと部屋の換気つきでやっていた我が家での定例〈お友だち麻雀〉もやめました。「私はコロナで死んでもいい、もう十分幸せに生きたから」と思っていましたが、医者の姪から「あなたが病気になったら、あなたのせいでベッドがあいてなくて、もしくは人工呼吸器が足りなくて、若い人が死ぬかもしれないのよ」と言われて心を改め、三密を避け外出自粛をしています。

今は怠けていた片付けと庭の草むしりに励み、大好きな織り物に精を出し、録りためた「大草原の小さな家」が楽しみな毎日です。(20.5.7)

徒然なるままに・・・

□思いがけず与えられた?時間をどう過ごすか。このようなことを言える者は、まずお気楽トンボ。罹病しない人でも多くの人が生死に関わる問題を抱えている。

□インド最古の寓話集パンチャタントラの「友だちを失う」の巻末にこんな格言が。先人は偉大 !!

～我が在る場とは？　我が成す時とは？　我が交じ友とは？　何を得んが為、何に捧ぐか。　他人（あだびと）に映りし己を問い、上意の術を我が道に問う人、此れを思惟するべし～

□とりあえず、家で、する仕事のある者は幸せ?!

この数日、文庫便りを作り、みなさんへの宛名を書き、頼まれた原稿を書き、個人的な冊子作りの原稿を見直し、三度三度の食事を作り、洗濯をし、家の前と脇の舗道を掃き、夜の散歩がてら、近くの小さなスーパーで生協に頼み忘れた食料を求め、本を読み、ちょいテレビ観を。これはこれで充足。でも、ちょっと違うわね。これは制約のなかの自由。しなくてはいけない我慢はするけど、させられる我慢をしないようにするためにはどうする、何ができる、個人で？ 仲間で？　この時もひたすら人の為に働いてくれている人々に感謝。　　（さ・ら）